

## くも膜下出血急性期脳血管 stent 使用例に関する周術期抗血小板療法の検討

富尾 亮介<sup>1)</sup> 赤路 和則<sup>1)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

[目的] 破裂脳動脈瘤急性期での脳血管 stent 使用は保険適応外だが、stent 併用の脳血管内治療が妥当と考えられる症例がある。急性期脳血管内 stent 使用例に関し、術前抗血小板療法および血小板機能検査、術後合併症について検討した。

[方法] 2017 年 4 月以降に破裂 1 週間以内に脳血管内 stent をやむを得ず用いた症例について、治療前の抗血小板投与、治療前後 Verifynow 結果、治療後 DWI 所見、術後新規神経症状、退院時神経症状を検討した。

[結果] 破裂急性期に使用した stent は 5 例全例が Neuroform Atlas だった。後方循環系 4 例は嚢状動脈瘤 3 例と、後下小脳動脈の解離性動脈瘤が 1 例だった。前方循環系では、破裂前交通動脈瘤塞栓後 coil 逸脱に jack-up を要した 1 例だった。後方循環の全 4 例で治療前 Aspirin 200mg, Clopidogrel 300mg (DAPT) が loading され、2 例で Ozagrel 80mg を併用した。全例で stent 閉塞は生じなかったが、還流域に散在性の DWI 高信号を認めた。1 例で術後麻痺が生じたが退院時には全快した。治療直前～翌日に Verifynow を行った 3 例で、いずれも PRU 高値を認めた。ARU は 2 例で治療域だったが、いずれも術後 DWI 高信号を認めた。前方循環例では術前 Prasugrel 18.75mg loading で DWI 高信号発生はなかった。

[結語] 後方循環系での DAPT loading 下での急性期 stent 使用では全例で支配血管領域に DWI 高信号を生じた。全例で PRU 高値を認め、Clopidogrel loading の効果は疑問である。Stent 使用に伴う後遺症を認めなかったことから、開頭手術 risk との比較において、急性期 stent 使用は許容されうる。